

2016年10月31日 (一部加筆・修正2017年2月20日)

会員各位

日本農業経済学会
会長 盛田 清秀

2017年度日本農業経済学会大会のお知らせ

時下ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

2017年度日本農業経済学会大会を下記の要領にて開催いたします。本大会では、一日目にシンポジウム、二日目に個別報告、特別セッション、日韓シンポジウム、特別企画、ミニシンポジウムを行います。多数のご参加をお願いいたします。

[1] 日程及び会場

日程：2017年3月28日(火)・29日(水)

会場：2017年3月28日(火)

千葉大学 西千葉キャンパス (最寄り駅：JR 西千葉駅，京成線みどり台駅)

〒263-8522 千葉県稲毛区弥生町1-33

2017年3月29日(水)

千葉大学 松戸キャンパス (最寄り駅：JR 松戸駅，千代田線，新京成線松戸駅)

〒271-8510 千葉県松戸市松戸648

<大会受付>

3月28日 千葉大学 西千葉キャンパス 総合校舎2号館 8:30～

3月29日 千葉大学 松戸キャンパス E棟1階 8:30～

<大会スケジュール>

3月28日(火) 千葉大学 西千葉キャンパス 総合校舎2号館

開会・開催校挨拶	9:00 ～ 9:05
会長講演	9:05 ～ 9:20
シンポジウム	9:20 ～ 16:30
総会・学会賞表彰	16:30 ～ 17:30
懇親会(フードコート2)	18:00 ～ 20:00

3月29日(水) 千葉大学 松戸キャンパス

個別口頭報告	E棟1階～4階	9:00 ～ 16:30 (予定)
個別ポスター報告	百周年記念ホール (プレゼンテーションと質疑応答) (閲覧者への説明・対応)	(午前中を予定) 12:00 ～ 13:00
特別セッション	E棟2階合同講義室、D棟1階(D112)	午前・午後
日韓シンポジウム	D棟1階(D112)	9:00 ～ 12:00
ミニシンポジウム	E棟2階合同講義室	13:30 ～ 16:00
ポスター賞授与式	百周年記念ホール	16:30 ～ 16:40

<諸会議>

3月27日(月) 千葉大学 松戸キャンパス

幹事会または正副会長等会議 E棟2階(合同講義室) 17:00 ~ 18:00
理事会 E棟2階(合同講義室) 18:00 ~ 20:00

3月29日(水) 千葉大学 松戸キャンパス

農業経済学関連学会協議会 E棟2階(E205) 17:00 ~ 19:00

[2] 参加費(当日受付)

1. 大会参加費: 4,000円(学生会員 3,000円)
2. 懇親会費: 5,000円(学生会員 3,000円)

※懇親会は、原則事前申し込み方式とさせていただきます。当日申し込み分は、数が限られますので、ご注意ください。

参加希望の方は、恐れ入りますが、2017年3月6日(月)までに、下記までメールでご連絡ください。

連絡先: noukei17reception@gmail.com

メールのタイトルは「懇親会参加申込」として、所属先と氏名をメール本文に明記して送信ください。

また、下記「[12]開催校からの情報提供」の「4. 昼食の予約販売について」にある29日の弁当申し込みと同時でも結構です。その場合は、「懇親会・弁当申込」としてください。

キャンセルの場合は、3月20日(月)までお願いいたします。それ以後のキャンセルはできかねます。

(なお懇親会費のお支払いは、当日、大会受付にてお願いいたします。)

[3] 大会に関する問い合わせ

「日本農業経済学会事務局」 ホームページ: <http://www.aesjapan.or.jp>

担当: 武石 昭二三 山本 博

(連絡先) 〒153-0064 東京都目黒区下目黒3-9-13 目黒・炭やビル (一財) 農林統計協会内

電話: 03-3492-2988 Fax: 03-3492-2942 メールアドレス: aesj@aafs.or.jp

[4] シンポジウム(3月28日)

1. 全体テーマ「次世代型農業のゆくえ」

座長: 小田滋晃(京都大学), 市田知子(明治大学)

報告

- 1) 農業経営革新の現状と次世代農業の展望 - 稲作経営を主な対象として -
南石晃明(九州大学)
- 2) 先進的農業経営体の展開と地域農業システム - 果樹産地を事例として -
徳田博美(三重大学)
- 3) 先進的農業経営体と地域農業・社会 - 新自由主義的ガバメンタリティを視点とした社会学的接近 -
坂本清彦(京都大学)
- 4) 先進的農業経営体の経営環境とリスク対応 - 規範的モデル分析を中心に -
松下秀介(筑波大学)

コメンテーター

第1報告: 伊藤亮司(新潟大学)

第2報告: 中安章(愛媛大学)

第3報告: 立川雅司(茨城大学)

第4報告: 栗原伸一(千葉大学)

2. シンポジウムの内容について

わが国の農業を巡る今日的な状況は決して明るくない。わが国農業を実質的かつ健全に担う農業経営体を表す総称概念として「農企業」が注目されつつある。「農企業」には、伝統的な意味での家族農業経営から集落営農に代表される組織農業経営体、社会・地域貢献を目指す農業経営体や企業的な経営体も含め先進的と目される農業経営体まで、様々な特徴を持つ多様な農業経営体が含まれる。「農企業」には産業としての農業だけでなく、農地や水路・ため池等の水資源を中心とする農業生産諸資源を健全な状態で「次世代へつなぐ」ことも社会的に要請されている。だが、実際には耕作放棄地等の増大により難しい状況にある。

2017年度のシンポジウムでは、地域間格差を伴いながら大きく変貌しつつあるわが国の農業の現状を踏まえ、「次世代型農業のゆくえ」をタイトルとした。具体的には全国各地に出現している先進的と目される農業経営体に着目し、それらの経営体の展開・発展・存続という個別課題や戦略がこの次世代へ向けた社会的な要請と整合的かどうかを多面的に検証することを試みる。さらに、それらの経営体と他の多様な農業経営体、農業協同組合を含む関連主体との関係や連携も検証していきたい。地域社会や集落等における重層的な組織や慣行・風習等の多様性を健全な状態で保持・発展させることが、産業としての農業の展開・発展・持続にとってだけでなく、先進的と目される農業経営体の展開・発展・存続にとっても不可欠になると考えるからである。同時に、次世代へ向けた社会的な要請にも応えることになるのではないかと。

そこで、今回は報告者4名、それぞれのコメントーター4名の会員に登壇していただくことにした。まず、先進的農業経営体の具体的分析対象として稲作と果樹作を取り上げる。稲作と果樹作を取り上げた理由は、生産に関して技術的差異は極めて大きいものの、ともに地域社会や集落との関連性が深く、限られた報告時間の中で今回の課題への接近に対して適していると考えたからである。さらに、先進的農業経営体と地域農業・社会との関連性、連携性に社会学的に接近する。最後に、これらの先進的農業経営体が直面する経営環境について一定程度計数的に明らかにすることを目指し、規範的なモデル分析を中心に課題に接近する。

各報告の概要は次の通りである。

第1報告は、農業法人を対象にした全国アンケート調査やスマート水田農業モデルの学際的研究開発プロジェクト等の研究成果に依拠しつつ、稲作経営を主な対象として、農業経営革新の現状を明らかにするとともに、社会経済条件の長期的変動を考慮した次世代農業の展望を目指す。なお、可能な範囲で、農業内他部門、他産業、海外農業との比較検討の視点を提示することを試みる。

第2報告は、均質な農家によって構成され、共販を中核とした「産地」という地域農業システムの下で展開してきた果樹農業を事例として、他の農業経営体からは飛び抜けた展開を遂げた先進的農業経営体と地域農業システムとの関わりについて、先進的農業経営体による地域農業システムの利用と積極的関与という点にも着目しながら、実証的に検討する。

第3報告は、先進的と目される稲作と果樹作の2経営体を事例に、地域の他の農業経営体及び農業関係機関ならびに住民らとの関係性、その動態、経営展開にもたらす影響について検証する。分析にあたり、近年の歴史社会学や農業社会学での議論を援用し「新自由主義ガバメントリティ」をキーワードに、地域農業のありようを世界的な社会潮流に位置づけた理解を図る。

第4報告は、主に水田作経営を対象として、大規模経営の形成プロセスを格差形成要因に注目しながら文献レビューにより整理し、地域資源管理の担い手として期待される先進的農業経営体が大規模経営として成立している経営環境について統計的な位置づけを試みる。また、これらの先進的農業経営体が直面するリスクとそれらへの対応について規範的モデル分析により接近する。

今回のシンポジウムでは、個々の先進的農業経営体の分析に留まらず、「農企業」にイメージされる「産業としての農業が農業諸資源を次世代につなぐ可能性」を検証することに主眼がある。今後、大きく変貌することが予想される日本農業を、大きな地域間格差を超えて望ましい方向に誘導する施策のための基礎理論の足掛かりとしたい。そして、次世代へ向けた社会的な要請に応える地域社会や集落の側の条件については2018年度のシンポジウムに譲ることを見据えて、会員諸氏のご協力の下、有意義な議論展開を期待する。

[5] 日韓シンポジウム (3月29日)

テーマ「自由貿易下における国内肉牛生産への影響—日韓比較を通じて—」

座長：品川優 (佐賀大学)

報告

1) 「日本の肉牛部門における生産構造と立地の変動—TPPの影響と関連して—」大呂興平 (大分大学)

2) 「開放化時代における韓牛の生産構造の変化」チェ・スン Chol (建国大学)

討論者 東山寛 (北海道大学)

アン・ピョンイル (高麗大学)

[6] 個別報告 (口頭報告・ポスター報告 : 3月29日)

1. 個別報告の種類と制限

個別報告は「口頭報告」と「ポスター報告」の2つに分けられますが、両方に同じタイトルや内容で申し込むことはできません。また、異なるタイトルや内容の報告であっても、筆頭報告者は、個別報告と[7]特別セッションそれぞれ1報告までに限られます。なお、報告論文または Research Letters への投稿は、個別報告と特別セッションをあわせて1報告に限られます。

2. 会員要件

筆頭報告者とコレスポンディング・オーサーに該当する報告者は、申し込みの段階で本学会員であり、会員番号を報告申請票に記入する必要があります。非会員の場合、個別報告の申し込み前に、本学会ホームページ (以下、学会 HP という) の「入会申請フォーム」で入会手続きを済ませてください。

3. 申し込み方法

個別報告の申し込みは、口頭報告、ポスター報告ともに、学会 HP の「2017年度日本農業経済学会大会 個別報告申込要領」ならびに「2017年度日本農業経済学会大会 個別報告 申請手順」の各書類を参照の上、12月1日 (木) から12月16日 (金) 17:00 までに、3点の書類 (①報告申請票、②報告要旨、③報告原稿) を電子メールで、口頭報告 : k_aesj2017@aafs.or.jp、ポスター報告 : p_aesj2017@aafs.or.jp、特別セッション : t_aesj2017@aafs.or.jp まで提出してください ([3]に記載の事務局のメールアドレスでは個別報告の申請を受け付けません)。このうち、①報告申請票の「報告言語」欄で該当する言語 (日本語または英語) を選択するとともに、①報告申請票、②報告要旨、③報告原稿に、コレスポンディング・オーサーに該当する報告者を指定してください。また、②報告要旨と③報告原稿は同一言語 (日本語または英語) で記載してください。①の報告言語が日本語で、②及び③の記載言語が英語 (あるいはその逆) でも結構です。③報告原稿は、上記「個別報告申込要領」に従って作成してください。

4. 申し込みの受付要件

個別報告の申し込みに当たり、上記3に定める提出物に不備があった場合は受け付けません。また、上記3に定める②報告要旨や③報告原稿については、申し込み段階で論文として完成していることが受け付けの要件となっています。この要件について厳格に審査し、分析途上の不完全な原稿や、完成原稿を装うために発表済みのものを転載した原稿などは受け付けません。なお、口頭報告からポスター報告へ (もしくはその逆の) 変更を依頼することがあります。

5. 報告方法など

1) 口頭報告

(1) 口頭報告の報告時間は25分 (17分の報告と8分の質疑応答) を予定しています。ただし、報告数によって変更する場合があります。

(2) プロジェクターを用いる場合のプレゼンテーション用ファイル (PDFファイルのみ受け付けます) は、

学会 HP の「2017 年度日本農業経済学会大会 個別報告発表要領」に従って作成し、2017 年 3 月 16 日(木) 17:00 までに、電子メールで [3] に記載した学会事務局へ送付してください。なお、送付後のファイルの差し替えは認められません。

2) ポスター報告

- (1) ポスター報告は、プログラムで指定された時間に行う 10 分の報告（7 分のプレゼンテーションと 3 分の質疑応答）に加えて、閲覧者へ説明・討論を行うことが義務づけられています。この両方を適切に行ったことをポスター賞選考委員会が確認できた場合に限り、ポスター報告を行ったものと認めます。
 - (2) ポスターの作成は、学会 HP 「2017 年度日本農業経済学会大会 個別報告発表要領」の別紙 1 「ポスター作成要領」に従ってください。サイズは A ゼロ判を厳守してください（複数枚を貼り合わせたものでも結構です）。
 - (3) ポスターの内容と当日の報告を審査の上、優れた報告に対してポスター賞を授与します。ポスター賞は、40 歳未満の筆頭報告者が発表する報告を対象とします。
- 3) 報告に関する詳細は、学会 HP の「2017 年度日本農業経済学会大会 個別報告発表要領」を参照してください。

6. 報告論文または Research Letters への投稿

- 1) 個別報告（口頭報告とポスター報告）後または特別セッション報告後に投稿された原稿のうち、掲載可と判定された原稿は、和文原稿の場合「報告論文」として『農業経済研究』（以下「和文誌」という）に、英文原稿の場合「Research Letters」として『Japanese Journal of Agricultural Economics (JJAE)』（以下「英文誌」という）に、それぞれ掲載されます。
- 2) 個別報告（口頭報告とポスター報告）や特別セッション報告を「報告論文」または「Research Letters」として投稿する場合は、筆頭報告者が筆頭著者となります。なお、これらへの投稿は、個別報告と特別セッションをあわせて 1 報告に限られます。
- 3) 投稿原稿の提出時期は、刊行スケジュールの変更により、従前より約 1 カ月遅くなる予定です（2017 年 5 月初旬予定）。今後学会 HP で公表される報告論文投稿要領をご参照下さい。
- 4) 投稿原稿の様式は、和文誌及び英文誌の「投稿規程」、「投稿細則」に従い、ページ数は原則 4 ページ、上限 6 ページです。3 ページ以下の原稿は受け付けません。
- 5) 英文サマリー、キーワード、メールアドレスの記載、及びコレスポンディング・オーサーの明示が必要です。
- 6) 掲載が受理された場合は、掲載料と英文サマリーの校閲料を発行前に納入する必要があります。掲載料は 4 ページで 2 万円、5 ページで 3 万円、6 ページで 5 万円です。また、英文サマリーの校閲料は著者の実費負担とし、1,500 円程度を予定しています。

[7] 特別セッション（3月29日）

1. 特別セッションの目的

特別セッションは、研究グループによる共通テーマの下で、複数の研究報告と討論、及び会場参加者との質疑を行う研究発表の場です。座長もグループ内で定めます。

2. 会員要件

特別セッションの場合、代表者は本学会員であり、報告者は、個々の報告について、[6] 個別報告の 2 に記載した会員要件を満たす必要があります。座長、コメンテーターについては、特に制約はありません。

3. 報告時間

報告者及びコメンテーターの人数や時間配分などは代表者に任されますが、セッション全体を 1.5～3 時間に収めてください。

4. 申し込み方法

特別セッションの申し込みは、学会 HP の「2017 年度日本農業経済学会大会 特別セッション申込要領」を参照の上、12 月 16 日(金)17:00 までに、3 点の書類 (①報告申請票、②報告要旨、③報告原稿) の全報告分と、④特別セッション全体申請票、⑤特別セッション全体要旨 (代表者、座長、報告者、コメンテーターの氏名と所属、全体テーマ、各報告タイトルを A4 判 1 ページに明記したもの) をまとめて、電子メールで、t_aesj2017@aafs.or.jp まで提出してください ([3] に記載の事務局のメールアドレスでは特別セッションの申請を受け付けません)。必要書類を受領後、「個別報告」と同じ基準で、個々の報告及び全体を審査します。なお、審査に通ったセッションでも、時間の短縮をお願いする場合があります。また、異なるタイトルや内容の報告であっても、筆頭報告者は、特別セッションと [6] 個別報告それぞれ 1 報告までに限られます。なお、個別報告論文または Research Letters への投稿は、特別セッションと個別報告をあわせて 1 報告に限られます。

5. 申し込みの受付要件

特別セッションの申し込みに当たり、上記 4 に定める提出物に不備があった場合は受け付けません。また、上記 4 に定める②報告要旨や③報告原稿については、申し込み段階で論文として完成していることが受け付けの要件となっています。この要件について厳格に審査し、分析途上の不完全な原稿や、完成原稿を装うために発表済みのものを転載した原稿などは受け付けません。

6. 料金

料金は 2 時間まで 1 万円、2 時間を超えて 3 時間まで 1.5 万円です (会場使用料やアルバイト代などの実費として徴収します)。料金の支払い方法については、[3] に記載した学会事務局から代表者に通知します。

7. プロジェクターを使用する場合

プロジェクターを用いる場合のプレゼンテーション用ファイル (PDF ファイルのみ受け付けます) は、学会 HP の「2017 年度日本農業経済学会大会 個別報告発表要領」に従って作成し、2017 年 3 月 16 日(木)17:00 までに、電子メールで [3] に記載した学会事務局へ送付してください。なお、送付後のファイルの差し替えは認められません。

8. 報告論文または Research Letters への投稿

特別セッションの個々の報告が投稿された場合、掲載可と判定された原稿は、和文原稿の場合「報告論文」として和文誌に、英文原稿の場合「Research Letters」として英文誌に、それぞれ掲載されます。投稿要領は、[6] 個別報告の 6 と同様です。また、審査方法も個別報告と同様です。掲載が受理された場合は、[6] 個別報告の 6 に記載した掲載料と英文サマリー校閲料を発行前に納入する必要があります。

[8] 特別企画 (国際誌掲載支援のための特別企画)

→ **今大会では開催しません。**

日本農業経済学会では、国際委員会を設置し、会員活動の国際化を目指した活動を開始しました。その一環として、2016 年 3 月開催の大会から「国際誌掲載支援のための特別企画」を企画しています。今年度は以下の要領で参加者を募集します。皆様の積極的な応募をお待ちします。

1. 個別特別企画の骨子

- 1) 国際的に評価の高いジャーナルに受理されるために必要な論文作成のノウハウを、経験豊かな会員による実際の報告論文に即した講評の形で提供し、それを公開の場で行うことにより、広く会員も共有する。
- 2) 本特別企画会場では、大塚啓二郎会員 (100 件超の国際ジャーナル論文公刊の実績と、複数の国際ジャーナルの編集委員、編集長を担当されている) が、講評、ノウハウ提供、指導等を行う。国際化委員会委員数名も参加する。
- 3) 本特別企画参加者 (定員 3 名程度) は事前に応募者から選抜され、特別企画にて報告を行う。

- 4) 本特別企画は、全参加者の口頭報告及びその後のコメント・質疑などを含めて約2時間程度を予定している。
- 5) 参加者は、本特別企画における大塚会員の指導をうけた後、論文を改訂したうえで英文誌（JJAE）に投稿することを推奨する（ただし、投稿先は英文誌以外の国際ジャーナルでもよい）。
- 6) 本企画の選考対象となる論文は、広く農業経済学全般の分析的な論文（実証分析を主に想定しているが、必ずしも計量分析には限定しない）とし、論文のテーマについても特に限定せず広く募集する。分析対象国や地域についても限定はせず、特に日本農業に関する論文の応募を含めて歓迎する。口頭報告は日本語でも可とするが、提出論文は英文に限る。

2. 募集要領

- 1) 参加希望者は、フルペーパー（英文、ダブルスペースで本文25ページ以内）を添えて、日本農業経済学会事務局「国際誌掲載支援のための特別企画」応募係宛メールにて応募（aesj@aafs.or.jp）。メールの件名に「国際誌掲載支援のための特別企画応募」の旨を明記すること。
- 2) 応募締め切りは、12月1日（締切厳守）。
- 3) 応募資格は、日本農業経済学会会員（共著論文を認めるが、応募者が筆頭著者）であること。原則として年齢制限は特に設けないが、40歳未満の若手の応募を特に歓迎する。

[9] ミニシンポジウム（3月29日）

テーマ「農業経済学教育のあり方を考えるー日本学術会議報告案をめぐってー」

- 1) 講演 学術会議報告案「農業経済学教育のあり方を考える」について
 - 2) 話題提供 農業経済学教育をめぐる新たな動向
 - ①新設農学系学部における農業経済学教育
 - ②環境分野における農業経済学教育
 - ③食の安全分野における農業経済学教育
 - ④「COC+」における農業経済学教育
 - ⑤欧米における農業経済学教育
 - 3) パネル・ディスカッション 農業経済学教育の展望
- ※日本学術会議（農業経済学分科会）による公開シンポジウムを兼ねています（予定）。

[10] 大会期間中の保育室設置について

1歳児以上を対象とした保育室の設置を検討しています。利用を希望される方は、[3]に記載した学会事務局宛に、利用希望日・時間帯・利用人員・年齢について、12月16日（金）までにご連絡ください。利用希望の状況がまとまった段階で、学会事務局より設置・運営方法、費用負担などについて相談させていただきます。

→ 申し込みがなかったため、今大会では設置しません。

[11] 今後のスケジュール

今後のスケジュールは以下のとおりです。

1. 個別報告（口頭報告、ポスター報告）の申し込み締切り（報告申請票、報告要旨、報告原稿の提出（電子メール））：12月16日（金）17:00
2. 特別セッションの申し込み締切り（報告申請票、報告要旨、報告原稿の3点は全報告分、加えて特別セッション全体申請票、特別セッション全体要旨の提出（電子メール））：12月16日（金）17:00
3. 個別報告「口頭報告」の座長決定（2017年2月中旬頃）
4. 学会事務局から座長予定者へ審査関係書類の送付（2017年2月中旬頃）
5. プレゼンテーション用ファイルの提出期限（電子メール）：2017年3月16日（木）17:00

[12] 開催校からの情報提供

1. ホテルなどの宿泊先について

千葉市・松戸市内および近隣市の宿泊施設をホームページなどで検索し、各自で手配してください。上野―千葉間は電車で1時間かかります。松戸キャンパス近くには宿泊施設が少なく、松戸―上野間は常磐線で20分ですので、松戸キャンパスへは上野周辺での宿泊も便利です。

2. 西千葉キャンパス (28日シンポジウム) のアクセス

JR「西千葉駅」または京成線「みどり台駅」から徒歩10分 ※ 会場の案内図をご覧ください。

3. 松戸キャンパス (27日:理事会・29日:個別報告等) へのアクセス

JR「松戸駅」または新京成線「松戸駅」から徒歩13分 ※ 会場の案内図をご覧ください。

4. 昼食の予約販売について (※3月29日(水)「松戸キャンパス」でのみの販売です)

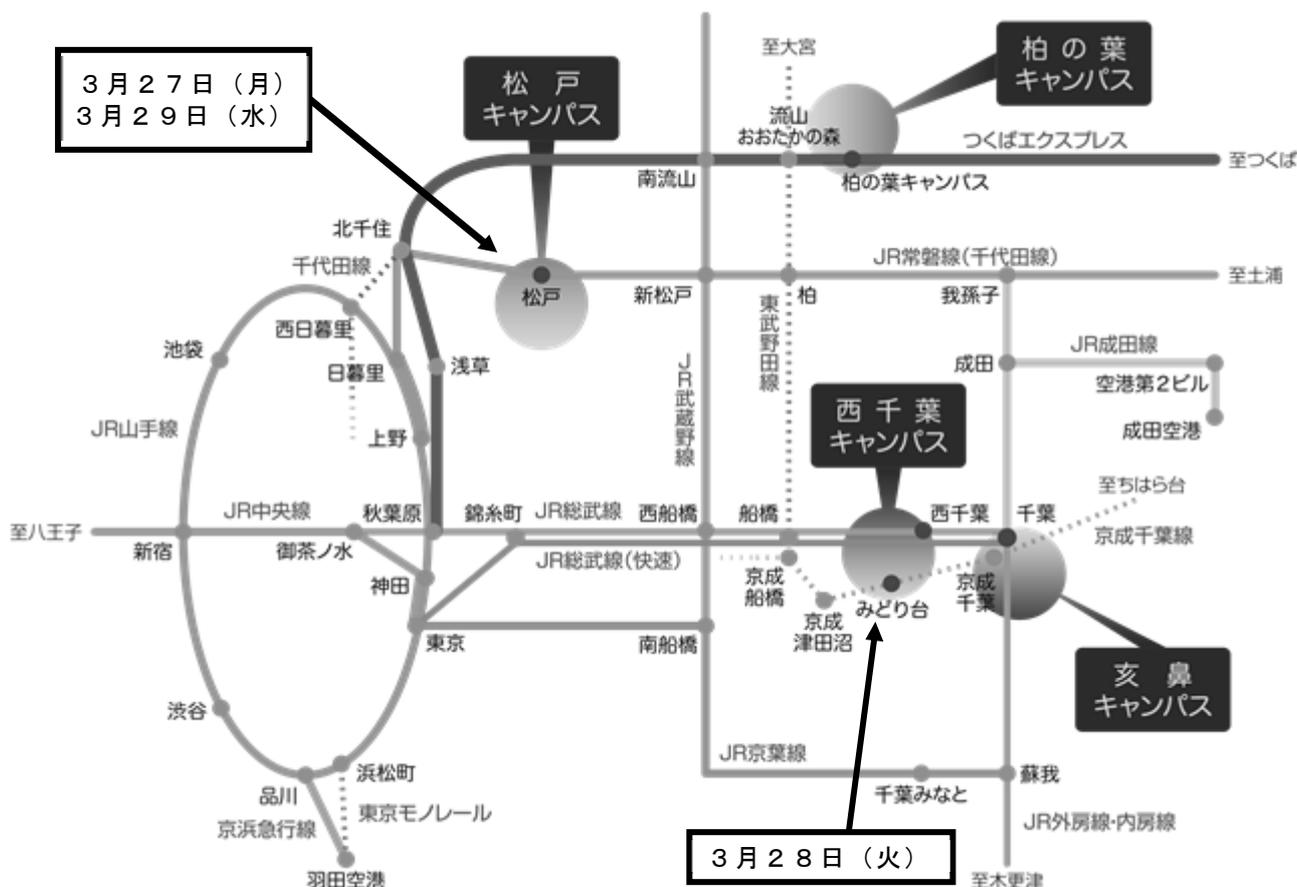
3月29日松戸キャンパスの昼食は学内の食堂が利用できますが、弁当も販売いたします。なお、大学周辺には食堂や店舗は少ないので、学内食堂あるいはお弁当(お茶付き, @千円)をご利用ください。

弁当は**予約制のみの販売**です。ご予約希望の方は**3月6日(月)までに**、下記にご連絡ください(懇親会と同時に申し込みも可能です)。当日、現金と引き換えとなります。

なお、予約のキャンセルは3月21日(月)までお願いいたします。それ以後のキャンセルはお受けできません。

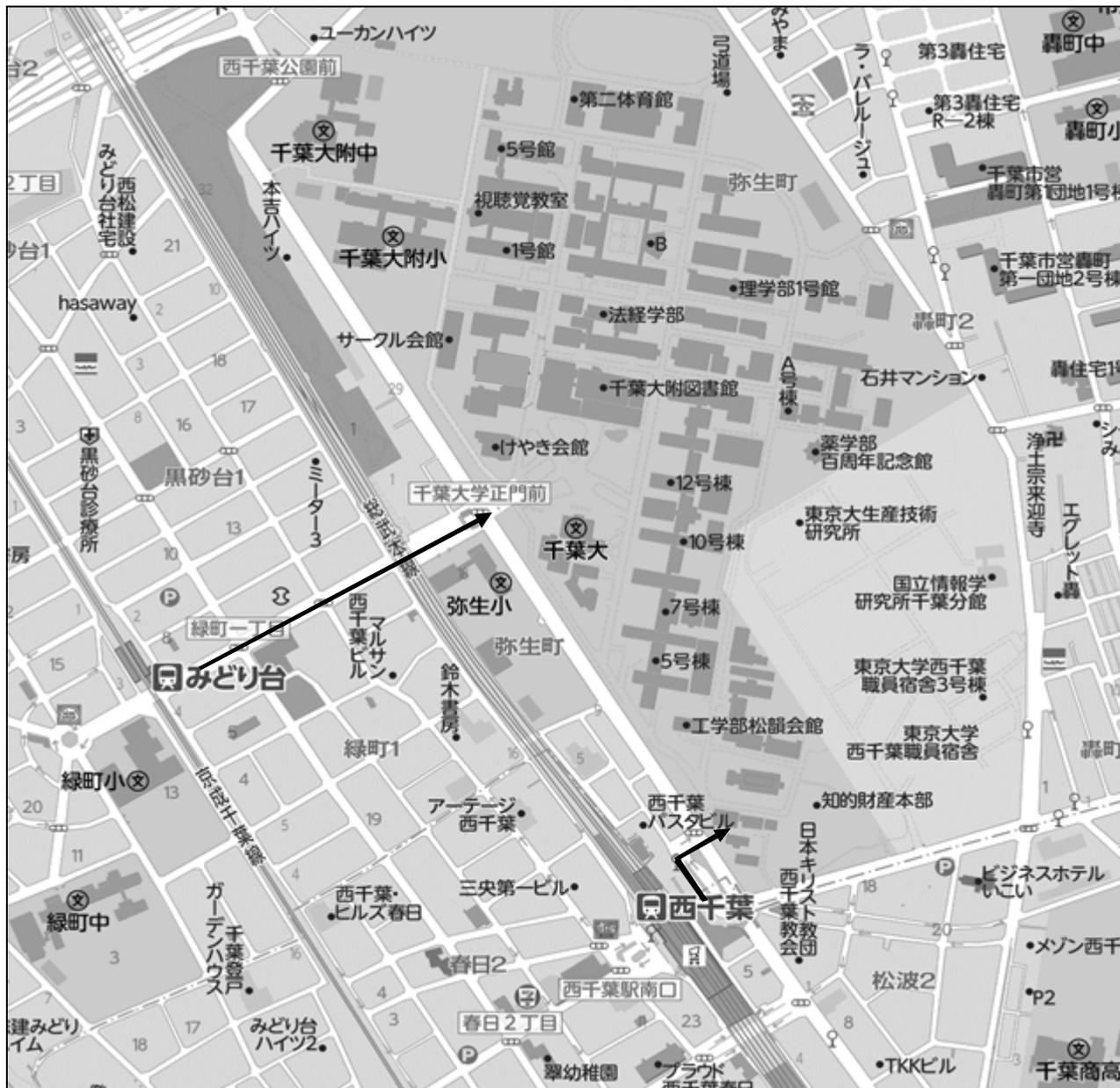
申込先: noukei17reception@gmail.com

会場の案内図



西千葉キャンパス(28日)

- ・ JR西千葉駅より西千葉キャンパス南門まで徒歩約2分
- ・ 京成みどり台駅より西千葉キャンパス正門まで徒歩約7分



松戸キャンパス (27日・29日)

・ JR常磐線，地下鉄千代田線，新京成線松戸駅から徒歩約10分



